

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪府立初の(併設型)中高一貫校として120年を超える伝統を有する府立富田林高等学校に併設された本校は、先進的な中高一貫教育を通して、地域や世界と協働しながら深い教養と探究心・豊かな人間性を涵養し、「地球的視野を持って未知の課題に挑み、地域や社会に貢献するグローバル・リーダー」の育成をめざし、未来に向けた挑戦を続ける。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては確かな学力を育成する授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。
 - ア 45分×7限授業(35単位時間(45分授業))により、2学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。
 - イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。
 - ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。
 - エ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。
 - オ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1人1台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。
- ※(生徒向け)学校教育自己診断における授業満足度を令和7年度まで90%以上を維持する。(R2 92% R3 93% R4 93%)

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

- (1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。
 - ア・スーパーサイエンスハイスクールとして「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。
 - イ・学力向上推進委員会が中心となって、中高一貫した進路指導実現のための様々な取組みの具現化を図る。
- ※(生徒向け)学校教育自己診断における「探究活動の満足度」を令和7年度も85%以上にする。(R2 85% R3 86% R4 83%)
また、「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度を令和7年度も80%以上の維持をめざす。(R2 78% R3 77% R4 81%)

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

- (1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事等の一層の充実を図る。
 - ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに中高一貫した部活動指導を図り、文武両道をめざす。
 - イ 人権教育を推進するとともに、国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。
 - ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。
- ※(生徒向け)学校教育自己診断の学校行事満足度を令和7年度も90%以上を維持する。(R2 92% R3 99% R4 96%)
- (2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。
 - ア 国際交流(マレーシア、台湾、ベトナム、タイ、トルコ、オーストラリア、アメリカ等)の充実及び新たな交流国の開拓
 - イ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校・交流校との交流の継続
 - ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。
- ※(生徒向け)学校教育自己診断結果で「国際交流等を通じたグローバルな視野とコミュニケーション力の育成」を令和7年度も90%以上を維持する。(R2 96% R3 93% R4 94%)

4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携

- (1) 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、6年一貫した教育活動の充実を図る。
 - ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。
 - イ 全国的な教育研究会への参加や、全国の教育先進校等の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。
 - ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクール、スーパーサイエンスハイスクールとして相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。
- ※(保護者向け)学校教育自己診断における情報発信の満足度を令和7年度には90%以上をめざす。(R2 92% R3 88% R4 89%)
- (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。
 - ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター(同窓会・企業・大学・自治体・NPO等)と連携のもと社会貢献を推進し、魅力ある学校づくりをめざす。
 - イ 安全・安心な学校づくりに努める。
- ※(生徒向け)学校教育自己診断における学校満足度を令和7年度も90%以上を維持する。
(生徒: R2 96% R3 95% R4 94%) (保護者: R2 95% R3 97% R4 95%)

5 働き方改革の推進

- (1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。
 - ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、中高連携した部活動指導を行うとともに地域と連携した部活動の在り方についても検討する。その上で、ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。
 - イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材活用などアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>()内は昨年度</p> <p>1. 学校満足度 *生徒・保護者ともに満足は高い。 <主な結果> (生徒)「富田林中学校に入学してよかった」95% (94) (保護者)「富田林中学校で学ばせることが出来てよかった」95% (95) (保護者)「教育方針をわかりやすく伝えている」93% (91)</p> <p>2. 学力の育成 *授業改善にむけた取組みが進んでいることがわかる。(生徒回答) *保護者は学力の育成に対する取組みに概ね満足。学習端末の使い方については生徒と保護者では受け取り方が違う。家庭での活用が効果的となるよう工夫が必要。 *必要な宿題の量(教科バランス)、生徒の家庭学習状況とのバランスの調整が引き続き必要。 <主な結果></p> <p>①授業 (生徒)「わかりやすく興味が持てる授業」88% (89) 「内容を深く考えさせる授業」91% (90) 「学習端末の効果的な活用」94% (94) (保護者)「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。76% (79) 「学校の学習活動への取組に満足」89% (88) 「子どもは学習端末を効果的に使っている。」74% (81)</p> <p>②家庭学習 (生徒)「宿題の量は適切である」59% (69) *家庭学習についてはICT、すき間時間の活用が加味されるよう見直しを図る。</p> <p>3. 学校生活 *生徒が学校生活について主体的に考え、生徒同士が高め合い認め合える学校づくりを推進していく。生徒会等から生徒指導の充実が図られていることがわかるが、教員の生徒理解に基づいた指導方法の習得及び指導力向上が引き続き必要。 <主な結果> (生徒)「生活指導に満足」86% (83)「いじめ対応に満足」86% (85) 「悩みを相談できる先生」66% (62) 「悩みを相談できる友人等」86% (80)</p> <p>4. 特色ある取組、豊かな感性 *本校独自のグローバル教育についての取組み及び学校行事に関して生徒・保護者両者は概ね満足。本年度はグローバルリーダー育成海外研修や台海外とのICTによる交流、国連学習、G7関連交流等多くの活動ができた。 *総合的な学習の時間などの探究活動について、アントレプレナーシップ的要素を取り入れプログラミングを改変した。また、取組みについて全国発表したことなどから生徒の自信にもつながった。 <主な結果></p> <p>①グローバル教育 (生徒)「グローバルな視野とコミュニケーション力育成に満足」93% (94) (保護者)「グローバルな視野とコミュニケーション力育成に満足」95% (92)</p> <p>②探究活動 (生徒)「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」85% (83) (教員)「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」100% (84)</p> <p>③学校行事 (生徒)「学校行事への満足度」95% (96) (保護者)「学校行事への満足度」90% (95)</p> <p>5. 情報発信 *学校からの情報発信については概ね良好である。 <主な結果> (生徒)「情報発信に満足」87% (83) (保護者)「情報発信に満足」89% (89)</p> <p>6. 学校経営 *学校経営方針は明確化されている。 *社会に開かれた教育活動を産学官協働により充実させていく。 *本校に課せられたミッションを明確なビジョンのもとに教育改革を進めていく。 <主な結果> (保護者)「教育理念や学校運営方針の表明」93% (91) (保護者)「新しい教育活動への対応」93% (91)</p>	<p>第1回 令和5年6月21日(水)開催</p> <p>1. 協議事項 ○令和5年度学校経営計画(富田林高校)の改訂 【承認事項】 ・令和4年度の進学実績を元に進路指導に関する目標を引き上げ。 【意見】 ・進学実績の向上とともに、今後もそれぞれの生徒に適した多様な進路指導を行ってほしい。</p> <p>○フリースクール(トゥルーカラーズ:NPO 学びと育ちネットワーク設置)との連携について 【承認事項】 ・フリースクール利用者が高校に進学するにあたり、富田林高校卒業を目標に連携を強化する。 【意見】 ・生徒たちを支援するためのさまざまな制度のひとつとして、地域協働での取り組みを発展させていきたい。</p> <p>○校則の見直しについて 【承認事項】 ・時代の変化に合わせ、合理的と思われない校則は改訂していく。 【意見】 ・高校の制服も中学校に合わせ、さまざまな生徒が着用しやすいブレザーにすることを議論している。 ・子どもたちが主体的に校則を考えるのがよいという社会的な流れがある。 ・校則で細かく禁止の規定を作るのではなく、生徒にとって何が大切なのかということを考えて教えるのがよい。 ・何を禁止するかについては、価値観をすり合わせるための議論が必要。 ・校則という一定のルールがあった方が子どもに指導しやすいという保護者からの要望もある。</p> <p>第2回 令和5年11月30日(木)</p> <p>1. 協議事項 ○R6年度コースに応じた教育課程の運用について(GEコースの人数増設について) 【意見】 ・生徒は、環境に影響されやすい。合格実績を上げていく上で、理解できる。 ・実情に即した指導(授業、考査等)を行っていくのはよいことである。一方で、GEコース、標準コースに一度ルールに乗ったらコース変更は難しいのか?あとから伸びる子もいるので、柔軟に対応できないか。</p> <p>○オンラインによる学びの保障について 【意見】 ・別室、トゥルーカラーズ内でのオンライン授業も進めていくのは良いこと。必ずしも学校に来ることが必要な時代ではない。学校に行かなくても世間で活躍している人はいっぱいいる。個性を尊重する時代になっていくのではないか。そういう時代において学校に来る意味について考えていかなければならない。</p> <p>2. 報告事項 ○校則について 【高校】 ・バイクの免許禁止、アルバイト原則禁止も文面から削除する。 【中学】 ・入学 名札の着用、携帯電話の使用について、現状に合わせて変更する予定。</p> <p>○総合的な学習の時間「探究」に係る全国発表並びに全国コミュニティ・スクール研究大会発表について 【意見】 ・地域学校協働活動で、教員の働き方改革のモデルにもなっている。この協議会の中からは、大谷委員に出席していただく。</p> <p>第3回</p> <p>1. 報告事項 ・学校教育自己診断に基づく学校関係者評価について(高校・中学) ・令和5年度学校経営計画について(高校・中学) ・校則の改訂について(高校・中学) ・富中イングリッシュワールドについて(中学)</p> <p>2. 協議事項 ・報告に係る意見 *今年度の学校関係者評価について ・体育祭を体育館ではなく学校に戻してほしい。 ・50分授業から45分授業への流れが中教審で話されているが、富中ではすでに45分授業になっている。 ・中高ともにいい結果が出てきている。 ・中高ともにグローバルな体験ができていて良い。 ・端末を使った朝学習なんかも、いろんなツールを上手くルーティの中に取り入れられたら、自己学習も進むので個別最適な学習が進む。 ・トゥルーカラーズ(フリースクール)の方では高校の情報をいただいている。こちら環境を整えたいと思う。 オンライン授業への対応として、3月の初めに光回線をフリースクールに引く</p>

工事をする予定。

- ・ツールカラーズでの定期テストの扱いについては学校で審議中。
- ・別室を利用する際に、診断書は必要ないのではないか（高校）。
（中学では診断書の提出を求めている。）
- ・生徒のためになるなら、高校についても診断書の提出を求めない方向で整備して欲しい。
- ・校則についても、時代の流れに合わせて改定してもらう方向でよい。

3. 承認事項

- ・令和6年度学校経営計画（高校・中学）について、出席委員の承認を得た。

第4回

1. 報告事項

【中学】

- ・文科省から教育課程調査研究協力校（総合的な学習）の指定を受けた。

【高校】

- ・地域フォーラムについて発表班が多く、一方で各班が、今までどんな研究をしてきたかがわからない状況で、来場者が発表を聞いている節がある。プリントではなく、冊子を作るべきか。

2. 協議事項

- ・報告（地域フォーラム、探究学習等）に係る意見

○地域フォーラムについて

- ・人が集まらなくて、困っている班があった。一方で、スライム作りや楠本委員の生け花教室については参加人数が多く、補助スタッフは増やしたが、十分に対応できなかった。運営側で工夫はできないのか。
- ・上記については、聞き手の問題もあると思う。（聞き手のレベルが上がれば、発表の本質が見えてくる。）
- ・教員がもっと質問しないといけない。教員が質問のレベルを上げていかないといけない。
- ・地域フォーラムの場合は、生徒の姿が見える舞台である。生徒自体がこの発表をどのように位置づけているのか？を確認してみることが大切である。
- ・企業名で呼び込みをしていた。これについては、いい面と悪い面がある。動機はしっかりしている。大阪で地域参画型は難しいがよくやっている。SSH校やGL校などは高大連携で持続しやすい。学びのプロセスが語れることが大事。試行錯誤のプロセスが語れるか、が大事。問いの連鎖が必要。
- ・発表者が多すぎて、全てを深く理解するには難しい。
- ・これだけフィードバックを貰える機会を貰えるのは素晴らしい機会である。

○探究学習等について

- ・どんな力をつけさせたいか？（目標）を明確にすることが大事。めざす生徒の姿（学校のあるべき姿）を見失っている事が多い。カリキュラムは生徒が歩いた道。目標は立てて終わりではなく、意識し続けることが大事。広島中高、奈良中高は目標との連結ができています。
- ・文献や下調べが甘い。先行研究がきっちり調べられていないことが多い。ダイジェスト資料など、手持ち資料がない。高校は企業との連携を活かせていない。
- ・オリジナリティーを全面に出すと、逆に薄い内容になる。中高の生徒は論文を入手できない。お金をかけるなら、チューターにかけるべき。研究の伴走者になるには、大学院生くらいがちょうどよい。
- ・学校の教員がアドバイスをするには限界がある。ナナメの関係の人が大切。
- ・インターネットで検索した内容を見ても、限界がある。そのことに気づくことも大事。
- ・中1から中3の探究のプロセスを逆にするのもいいのでは？（最終的に地元企業に提案する。）
- ・研究のレベルはそこまで気にしなくていいが、生徒のものを考える力の変容をしっかりと見ることが大事。総合型選抜（大学）のため、きれいな研究が増えているが、最終的には口頭試問で力が問われる。非認知学習に囚われすぎないことも大事。”

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)</p> <p>ア 45分×7限授業(35単位時間(45分授業))により、2学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。</p> <p>ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>エ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。</p> <p>オ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1人1台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・45分×7限授業(中学校では週35単位時間)により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ・各教員がスーパーサイエンスハイスクールであることを意識し、探究的要素を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業デザインができるよう研究する。</p> <p>・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。</p> <p>・中高合同の地域公開研究授業(DAY)を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け(授業交流週間 WEEKS)、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究を行う。</p> <p>・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。</p> <p>ウ・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。</p> <p>エ・毎朝始業前に10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。</p> <p>・オールイングリッシュでの体験をベースとした「イングリッシュキャンプ」等を1・2年生で実施する。</p> <p>・中学2・3年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。</p> <p>オ・オンライン学習研究委員会を中心に、授業における端末の効果的な具体的実践について情報共有を図る。</p> <p>・ICT等によるすき間時間を活用した学習方法や個別最適化に対応した学習方法を研究する。</p> <p>・デジタル教科書を導入し、研究実践を行う。(一部教科)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒)学校教育自己診断における授業満足度90%以上にする。[89%]</p> <p>イ・(教員)学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業をしている。」90%以上を維持向上[95%]</p> <p>・(生徒向け)深く考えさせる授業満足度90%以上を維持向上。[90%]</p> <p>・(教員)授業検討機会満足度90%以上を維持[90%]</p> <p>ウ・カリキュラムマネジメントした内容を学校案内パンフレットに反映させる。</p> <p>エ・(生徒)グローバル教育推進度90%以上を維持向上[94%]</p> <p>・英語能力試験(外部)の到達目標を下記のとおりとする。 中2:520点以上が80名以上(C EFR A 1以上)をめざす。 中3:690点以上が80名以上(C EFR A 2以上)</p> <p>オ・(生徒)学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している」90%以上維持向上[94%]</p>	<p>ア・授業満足度は88%となり目標値を僅かに下回ったが概ね良好な結果であった。教育センターと連携し授業改革に係る校内研修体制の充実を図り、今後も維持向上をめざす。(○)</p> <p>イ・「主体的・対話的で深い学びを意識して授業している」についての教員自己評価は87%に留まった。教員間で授業方法等について検討する機会を増やしていきたい。(△)</p> <p>・(生徒向け)深く考えさせる授業満足度は91%で90%を維持向上できた。授業改革推進の取組み重点として引き続き取り組むたい。(○)</p> <p>・教科の授業研究については、中高合同の地域公開研究授業(DAY)を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け(授業交流週間 WEEKS)、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくった。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなった。(教員)授業検討機会満足度60%にとどまったのは、総合的な学習の授業検討に重点を置いたことで、教科研究は実施しているものの印象が薄れたことや教員への調査時点が全国発表前であったためと考察できる。次年度は教科そのものの授業検討内容について充実させていく。</p> <p>・本年度は総合的な学習の時間(探究)について「探究学習を通じた『グローバル・サイエンスリーダー』育成プログラムの開発と実践～産官学協働による社会に開かれた教育課程の実現～」をテーマに重点的に検討機会を設け、全国発表(公開授業、基調講演、事業説明等)を行った。その際、全国から約100名の教育関係者の参加を得、本校の総合的な学習(探究)に係る取組みについて研究討議した。探究については教科横断的な視点から教科との関連を意識して行った。(◎)</p> <p>ウ・カリキュラムマネジメントに基づいた内容を学校パンフレットに反映させた。(○)</p> <p>エ・(生徒)グローバル教育推進度は93%であり、90%以上を維持向上できた。(○)</p> <p>本年度は府教育庁との連携によりイングリッシュキャンプをさらに充実発展させる目的で“Tonchu English World”を実施予定(3月)である。</p> <p>・英語能力試験(外部)の到達結果は下記のとおりとなり目標を達成した。(○) 中2:520点以上(C EFR A 1以上)が107名 中3:690点以上(C EFR A 2以上)が82名</p> <p>オ・(生徒)学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している」は昨年度と同数値の94%であり、目標は達成できた。(○)</p> <p>今後は校外での活用が効果的となるよう工夫していく。</p>

府立富田林中学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア・スーパーサイエンスハイスクールとして「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のための学力向上推進委員会が中心となって、様々な取組みの具現化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発)を具現化するプログラムを総合的な学習の時間に実行し、その成果を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域外部サポーターを活用し、社会探究ベーシック、社会探究アドバンス、提案型探究について実施（10月～3月）し、課題発見や課題解決能力を育成する素地を養う。 ・SSHの取組み強化策として総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を充実することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。 <p>イ・総合的な学習の時間の中で将来の生き方や進路について考える機会3回以上設ける。（講座、講演、出前授業等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進委員会を定例化し、機能強化を図る。 ・大学進学に係る生徒面談（未来面談）を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試に係る説明会（未来セミナー）を実施する。 ・生徒全員に学力推移調査等（外部試験）を実施し、将来の目標を早期に発見させる。 ・毎週火曜日の学習優先日に学習支援を実施する。 	<p>(1)</p> <p>ア・（生徒）学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度85%以上にする。[83%]</p> <p>イ・（生徒）将来の生き方や進路について考える機会満足度75%以上を維持向上 [81%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高校学力向上推進委員会との連携による中高を通じた学力向上策として教職員研修の2回以上の実施をめざす。 [2回] ・各教科での学力分析を行い、結果と対策について校内プレゼンテーションを1回以上する。 [1回] ・学力分析結果について保護者説明会を2回以上実施する。 [2回] ・地域学校協働本部との協働による大学入試説明会の実施（1回以上）をめざす。 [1回] ・広域外部サポーターとの連携により学習優先日に中学・高校教員、高校生、地域人材（大学生等）を活用した学習支援の20回以上の実施をめざす。[20回] 	<p>ア・（生徒）学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度は85%であった。本年度は総合的な学習の時間（探究）について「探究学習を通じた『グローバル・サイエンスリーダー』育成プログラムの開発と実践～産官学協働による社会に開かれた教育課程の実現～」をテーマに重点的に検討機会を設けた。</p> <p>また、全国発表（公開授業、基調講演、事業説明等）を行った。その際、全国から約100名の教育関係者の参加を得、本校の総合的な学習（探究）に係る取組みについて研究討議した。その際、教科横断的な視点から教科との関連を意識して行った。成果物として「富中探究学習ハンドブック」を取りまとめ、校内外での活用が大いに期待できる。</p> <p>また、結果として文部科学省から高い評価を得て、次年度文部科学省指定教育課程実践検証協力校候補となった。(◎)</p> <p>イ・総合的な学習の時間の中で将来の生き方や進路について考える機会、特にアントレプレナーシップに係る講演会（4回）を新規で実施した。さらに36企業と協働で出前授業等を実施した。また、大学進学に特化した未来面談（10月）及び未来セミナー（10月 NPO 学びと育ち南河内ネットワーク・企業協力）、未来ツアー（大阪大学）を実施した。結果として（生徒）将来の生き方や進路について考える機会満足度86%となり目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>次年度はカリキュラムの更なる充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高校学力向上推進委員会との連携による中高を通じた学力向上策として教職員研修を4回実施した。(○) ・各教科での学力分析を行い、結果と対策について中高教職員を対象に校内プレゼンテーションを実施（2月）した。(○) ・学力分析結果について保護者説明会を2回実施予定（第1回は6月実施、第2回は2月実施）(○) ・地域学校協働本部との協働による大学入試説明会を実施した（10月）(○) ・広域外部サポーターとの連携により学習優先日に中学・高校教員、高校生、地域人材（大学生等）を活用した学習支援を50回実施した。(○)
---	--	--	--	---

府立富田林中学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに中高一貫した部活動指導を図り、文武両道をめざす。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) ア 国際交流（マレーシア、台湾、ベトナム、タイ、トルコ、オーストラリア、アメリカ等）の充実及び新たな交流国の開拓</p> <p>イ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p>	<p>(1) ア・体育祭や文化祭等をはじめ、学校行事全般において、グローバル・リーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・中高合同の部活動指導の拡大を図る。 ・中高一貫した部活動、地域と連携した部活動をめざし、指導体制を整える。</p> <p>イ・中学校段階に相応しい人権及び生徒指導研修を計画・実施する。 ・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>ウ・生徒自らが課題を見つけ、自分自身や仲間とともに解決していかうとする力を育てる。中心となる活動として「メイクハート運動」を実施し、学校全体で取り組む。 ・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。 ・生徒、教職員が快適に過ごせる教育環境を整備する。教育相談委員会（高校）との連携を強化し、中高全教職員での共有化を図る。 ・府又は市の生徒会サミットに参加し先進校の仲間づくりを学ぶ機会を設ける。[新規]</p> <p>・演劇的な手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>(2) ア・新型コロナの状況が見通せない中、高校との連携も含め、海外での交流の可能性を探りつつ、ICTを活用しながら様々な国の生徒との交流を図る。 イ・台湾姉妹校交流方法を工夫改善し、異文化を理解する態度をはぐくむ。 ・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしておく。 ・コロナ禍において海外研修が困難である状況を鑑み、国内で実施可能なグローバルプログラム代替企画を立案、実施する。 ・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、企業連携による海外研修の情報を提供する。</p>	<p>(1) ア・体育祭の体育館活用の充実について検討し、実施する。 ・部活動改革委員会を設け、部活動の改革を進める。[新規] ・中高合同又は連携して実施する部活動を2部増やす。[新規] ・地域と連携して実施する部活動を1部増やす。[新規]</p> <p>イ・課題に合致した人権研修の実施。 ・人権教育推進委員会を定例で開催し(週1回)中高系統性のある指導を行う。</p> <p>ウ・「メイクハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取り組みについての実施をめざす。</p> <p>・(生徒) 学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度90%以上を維持する。[85%] ・(生徒) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」60%以上[62%]、「相談できる友達・先輩後輩等」80%以上[80%]をめざす。 ・府又は市の生徒会サミットに1回以上参加する。 ・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成の取り組みについて文化祭での発表をめざす。</p> <p>(2) ア・多くの生徒が海外の中・高校生との2カ国以上の交流をめざす。[2ヶ国] イ・国内修学旅行についても検討するが、台湾の姉妹校と今後の交流についてはICTを活用するなど可能な限り実施する。 ・新型コロナ禍における実施可能なグローバルプログラム検討についてグローバル委員会で検討する。(定例開催) [新規] ・(生徒) グローバル教育推進度 90%以上を維持向上 [94%]・</p>	<p>ア・大阪市中央体育館（Asueアリーナ大阪）で体育祭を実施した。 (○) 次年度についても同施設での開催を予定。 ・部活動改革委員会を設け、部活動の改革を進めた。(○) 今後も改革を推進する予定。 ・中高合同又は連携して実施する部活動を2部増やした。(○) ・保健体育課と連携し、地域と連携して実施する部活動を1部モデルケースとして検討している。(○)</p> <p>イ・今年度は人権教育の教育力向上を図る目的で大学等と連携し教職員研修を重点的に実施した。(◎) 全教職員対象に人権研修を9月・12月に実施。 経験年数の少ない教員対象に相談会を11月に実施。 ・系統性のある取組みをめざし、中高人権教育推進委員会を定例で開催した(週1回)。(○) 次年度は研修等で得た知識等を基に教育活動での実践を図る。</p> <p>ウ・ことばの大切さをテーマとした「メイクハート運動」を実施し、生徒自らが課題解決に向けた取組みを具体的に実践した。(○) ・(生徒) 学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度は目標には届かなかったが86%で昨年度を上回った。(△) ・(生徒) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」66%、「相談できる友達・先輩後輩等」86%と昨年度より向上した。(○) 上記数値結果を総合的に見ていじめを未然に防止する仲間づくりや相談に係る組織力は向上したと捉えている。 ・大阪府中学生徒会サミット、富田林市生徒会サミットに参加し、他校の先進的実践(いじめの防止等がテーマ)を学び、校内で全校生徒に共有できた。(○) ・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成に取組み、文化祭で発表した。(○)</p> <p>(2) ア・トルコ、ネパール、台湾との交流に留まらず、社会貢献の観点から生徒の活動によりネパールへの募金を行った。(○) イ・修学旅行はグローバル・科学的な観点(沖縄科学技術大学院大学視察)を取り入れ、沖縄方面で実施した。また、台湾の姉妹校とICTを活用し交流を深めることができた。(◎) 次年度は台湾姉妹校が来日する予定。また、次年度に向け、国際情勢を踏まえ海外修学旅行先について検討委員会を設置し検討している。 ・新型コロナ禍における実施可能なグローバルプログラム検討についてグローバル委員会(定例開催)で検討し、グローバルリーダー育成海外研修を台湾、マレーシアの2ヶ国で実施した。(◎) ・以上のような取組みにより(生徒) グローバル教育推進満足度93%の数値結果となった。(○)</p>
--	---	--	--	---

府立富田林中学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を策定すべく、それぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。</p> <p>イ 全国的な教育研究会への参加や、全国の教育先進校等の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p> <p>ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクール、スーパーサイエンスハイスクールとして相応しい学校 Web ページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。</p> <p>(2) ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター(同窓会・企業・大学・自治体・NPO 等)と連携のもと社会貢献を推進し、魅力ある学校づくりをめざす。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・策定した「スクール・ミッション」を受け、全校的に「スクール・ポリシー」の策定に取り組み、高校と共に共通認識を図る。</p> <p>イ 全国的な教育研究会、先進中高一貫校・SSH 校・コミュニティ・スクール校等の先進的な取り組みを視察・情報収集等を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。</p> <p>ウ・2年前に全面改訂した学校 Web ページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、教育課程を社会に開きより多くの方々为学校運営に参画できるように努める。 ・コミュニティ・スクール推進委員会を組織し「めざす学校像」の共有化を図り、中高一貫した取り組みを進める。 ・コミュニティ・スクール広域外部サポーターとの連携を基礎に、課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。 ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。</p>	<p>(1) ア・(教員) 分掌・教員間での中高連携満足度 50%以上をめざす。[68%] ・(教員) 教育理念を意識した教育活動 90%以上維持 [95%] ・(保護者) 教育方針の明確化(新規) [91.4%]</p> <p>イ 先進校等の情報を収集し、職員会議等での情報共有(2回以上)をめざす。[2回]</p> <p>ウ(保護者) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。[89%]</p> <p>(2) ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより多くの方々为学校運営に参画した熟議開催(2回以上)をめざす。[4回]</p> <p>・学校運営協議会委員が教育活動に係り教育活動を推進する CS 協議会を年3回以上開催し、より企業等との連携を充実させる。[3回] ・(生徒) 社会貢献意識育成満足度 90%以上を維持。[94%]</p> <p>・寺内町フィールドワークを実施(1回) [1回] ・河川清掃などの地域でのボランティア活動の1回以上の実施をめざす。[1回] ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動の1回以上の実施をめざす。[0回]</p>	<p>ア・(教員) 分掌・教員間での中高連携満足度は 67%であり目標は達成している。(○) 次年度以降も高校教員が中学(本校)での経験を多く積める機会を増やしていきたい。 ・(教員) 教育理念を意識した教育活動が 80%に留まった。(△)しかし、全国発表等における外部評価についても教育方針の明確であり教育活動につながっていることに対して肯定的評価が高い(90%)。 また、(保護者) 教育方針の明確化については 93%と高評価を得た。(◎) 外部評価が、本校教員が特に意識せず自然に教育実践されている結果ととらえることができる。また、教員への調査時点では全国発表前であったことから、本数値をもって効果検証することは適切でないと捉える。教育理念を意識しなくとも教育活動に理念が反映でき、本校教員が自己肯定感を持ち本校のミッション達成に向けた働き方ができる機会を今後も設けていく。 また、本校での経験が豊富な教員から本校での経験が少ない教員に対して理念の共通認識を推進する。</p> <p>イ 先進校等の情報を収集し、職員会議等での情報共有を4回行い校内運営の参考とした。(○)</p> <p>ウ(保護者) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 89%であり、昨年並みとなった。 ただ、質問項目が「ホームページ・ブログやメール・プリントなどで情報をよく流している。」となっている。 実際には、マスコミ(テレビ1回、新聞2回、ネットニュース1回、文科省フェイスブック、地域誌等)では報道されており想定以上の広報効果があった。(○) 指標について見直していく。</p> <p>ア・学校運営協議会の熟議開催を4回実施した。また下記のとおり全国発表したことにより、内容が大きく充実した。(◎)熟議内容はコミュニティ・スクールのしくみを活用した産官学協働の教育活動、校則見直し、課題対応(不登校等)等 また、「コミュニティ・スクールだからできる産官学協働による社会に開かれた教育課程の実現」をテーマに全国コミュニティ・スクール研究大会(文部科学省主催)で本校の取り組みを発表した。 文部科学省指導助言の1部 経済産業省が、「今、社会・企業に求められている力として『社会人基礎力』」を提唱していますが、その実社会・実生活で生きる能力、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」などが、様々な場面、活動の中で育まれているように思いました。ほんとに素晴らしい実践でした。」 ・学校運営協議会委員が教育活動に係り教育活動を推進する CS 協議会を年3回開催し、より企業等との連携を充実させた。 また、学校運営協議会委員が教育活動に係り以下の活動を実践した。(◎) 【講演活動等の実施】 公開授業時に授業改善に係る講演、アントレプレナーシップ講演、いじめ防止授業等 【保護者への支援】 親学習の実施 【課題解決組織への参画】 学校支援チーム、フリースクール連携会議等 ・(生徒) 社会貢献意識育成満足度 91%であり目標は達成している。(○) 今後もコミュニティ・スクールとしての実践力を高めていく。 ・寺内町フィールドワークを実施(1回) (○) ・石川大清掃として地域でのボランティア活動を実施(1回) (○) ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動を実施したあいさつ運動、府生徒会サミット、富田林市生徒会サミット等(3事業)、チャリティーマラソンへの参加 (○) イ・専門人材(SSW、SC、識者等)を活用し、機関連携や研修・講演等の3回実施した。(◎)</p>
-------------------------------------	---	---	---	--

府立富田林中学校

	<p>イ 安全・安心な学校づくりに努める。</p>	<p>イ・教員だけでは対応できない教育課題（ヤングケアラー等を含む）解決のための人材（SC、SSW、識者等）を「学校支援チーム」に効果的に配置する。</p> <p>・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。</p>	<p>イ・専門家人材（SSW、SC、識者等）を活用し、機関連携や研修・講演等の1回以上の実施をめざす。[3回]</p> <p>・「学校支援チーム」連絡会議の3回以上の開催をめざす。[3回]</p> <p>・連絡手段体制を確立し、想定訓練等の1回以上の実施をめざす。[2回]</p>	<p>困難課題対応研修（4月）、いじめ防止授業（2月）、生徒指導研修（2月）</p> <p>・「学校支援チーム」連絡会議を10回実施した。(◎)</p> <p>学校支援チーム会議では学校だけでは解決が困難な事象に対して専門家と共に解決策を協議した。専門的な視点による意見については今後の学校運営には必要不可欠である。今後も効果的な活用を行う。</p> <p>・想定訓練等を2回実施した。(○)</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、中高連携した部活動指導を行うとともに地域と連携した部活動の在り方についても検討する。その上で、ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。</p> <p>イ 一般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材を活用するなどアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・府下全校一斉退庁日の呼び掛けを強化し定時退勤を促す。また、月毎の時間外勤務の総時間を職員にフィードバックして働き方見直しへの契機を作り、時間外在校時間が上限（45時間/月）を超えないようにする。</p> <p>・各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、ノー残業デーに掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。</p> <p>イ・校務（事業等）を見直すことで業務の軽減化を図る。</p> <p>・教育活動において民間企業と連携するなど、アウトソーシング化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。特に全校一斉退庁日を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（45時間/週）以下を維持する。</p> <p>イ・校務（事業等）を2つ以上見直す。</p> <p>(教員)</p> <p>大学生・民間人等の支援による教育活動充実度 75%以上維持向上めざす。[79%]</p> <p>(教員) 学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度 90%以上の維持をめざす [83%]。</p>	<p>ア・ノークラブデーやノー残業デーを徹底した。また、全校一斉退庁日（火曜日）を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（45時間/週）以下を維持できている。(12月集計) (○)</p> <p>また、職員会議資料ペーパーレス化、事前提出ルール化、連絡、資料配布・説明の電子化、職員間共有事項の電子掲示板化、ICT機材の一括管理、時間外の外線電話の受付中止、欠席連絡の効率化、保護者への文書配布のデジタル化、各種委員会への参加メンバーの精選、会議項目の精選を実施した。</p> <p>イ・校務（事業等）を下記のとおり見直した。(◎)</p> <p>・学校運営協議会委員及びコーディネーターが学校と企業の連携を図る仕組みを充実させ教員の業務軽減を図った。実践については全国コミュニティ・スクール研究大会で発表した。</p> <p>・府教育庁と協力し入学者選抜におけるオンライン出願、デジタル採点等の新規実施において教職員の働き方の改善を図った。</p> <p>・部活動の地域移行について部活動検討委員会を設置（新規）し具体案を教育庁と連携し準備を進めている。令和6年度当初より具体的な取組みを進める予定。</p> <p>・(教員) 大学生・民間人等の支援による教育活動充実度は昨年度を下回り 60%であった。今後、民間との連携を強化する。(△)</p> <p>多数の民間人（大学・企業等）や大学生の支援について実情において、教員がどのような基準で回答しているか分析する。</p> <p>・富田林中学校での勤務満足度（教員）は昨年度同様 73%であった。さらに校務の効率化を図る。(△)</p> <p>次年度に向けて教員の働き方が充実する方向での支援が必要である。</p>